６　林　　業

項　　目

作　　業　　内　　容

シイタケ栽培について

（今月の作業のポイント）

・新たなホダ木を作るための作業　○原木の選定
○原木の伐採

・これからシイタケを発生させるための作業　○ホダ場の選定
○ホダ起こし

原木の伐採等作業を実施するためには、毎日発表される週間天気予報を確認する。

（１）原木の選定

シイタケ原木の最適樹種は、クヌギ、コナラであるが、カシ類、シイ類、シデ類も適樹種である。

また、原木に適する樹齢は、クヌギが10～18年、コナラが15～25年生、カシ類、シイ類、シデ類が30～60年である。

（２）原木の伐採

シイタケ原木の伐採適期は、クヌギでは３分黄葉期で、晴天が数日続いている時がよい。この時期は、樹液の流れが少なくなり樹皮が剥げにくくなる。

一方、まだ葉から蒸散が行われているため、伐採後の「葉枯らし」により、葉の蒸散作用で辺材部の水分が抜けて材組織の枯死が進み、シイタケ菌糸がまん延するのに適した原木状態となる。（表１、写真１）

この「葉枯らし」の期間は１～２ヶ月ぐらいが適当であるが、伐採地の地形や環境、樹種、原木の大きさ、気象条件などを考慮して決める。

伐採時の注意事項は次のとおり。

ア　安全作業を心がけ、ロープ等で伐採方向を定める。（写真１）

イ　伐倒方向は、斜面に向かって上方向か水平方向とする。

ウ　伐採した原木の伐り口を切り株や石などの上に乗せ、伐り口をできるだけ地面につけない。（写真２）

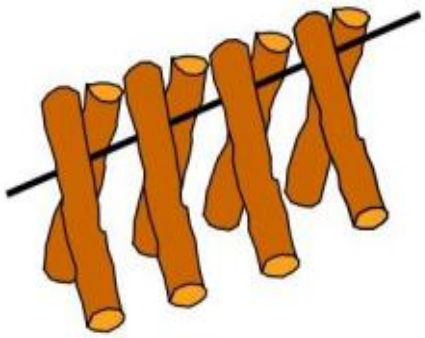
表１　原木の伐採適期

樹種／伐採時期	クヌギ	コナラ	カシ類 シイ類	シデ類
黄葉初期から３分黄葉	◎	◎		◎
４分黄葉から７分黄葉	○	◎		
寒期(１月～２月上旬)		○	◎	
春期(２月中～３月上旬)		○		○

※この表は標準であって、場所、その年の気象条件などで、若干差が生じる場合がある。　　◎･･･最適期　○･･･適期

※老齢木は黄葉初期に伐採する。

項　　目	作　　業　　内　　容
	エ　伐採の時、すでに害菌や穿孔虫などの侵入を受けている元玉などの被害部は取り除く。  **写真１　原木の伐採の状況**  **写真２　葉枯らしの状況**
（３）ホダ場選定	ホダ場の温度条件と使用品種が合っていないと品種の特性が発揮しにくい。特に、低温系品種はこの傾向が強いので、なるべく南から東南向きの日当たりが良く、昼夜の温度較差が大きい場所をホダ場に選定する。
（４）ホダ起こし	シイタケ菌糸が十分にまん延したホダ木を、シイタケの発生環境に適した林内のホダ場に移し、シイタケが変形せずに生長し、採取しやすいようにホダ木を組み変えることを「ホダ起こし」という。ホダ起こしは最低気温が数日間にわたり、使用品種のきのこ発生に必要な温度以下になってから実施する。 ホダ起こし時の注意事項は次のとおり。 ア　シイタケ菌糸のまん延したホダ木は、原木にくらべて樹皮が傷付き易くなっている。このため、作業時に樹皮部が損傷すると、損傷部やその周辺部が乾燥してシイタケ菌が衰弱・死滅し、その部分から害菌のトリコデルマなどが侵入し大きな被害を受けることがあるので、取扱いに注意する。 イ　作業中、ホダ木に直射日光が当たると高温障害を起こし、シイ

項　　目	作　　業　　内　　容
	タケ菌糸は衰弱して害菌の侵入を受け易くなるので、特に裸地伏せ地での作業は笠木を一度に取り除かないなど、直射日光が当たらないよう注意する。 ウ　ホダ木を、ホダ場まで運び一箇所に積んだまましばらく置く場合が多いが、その間は直射日光が当たらないようホダ木を保護する。 エ　ホダ木の組み方は、ヨロイ、ムカデ、合掌等の方法があるが、一般には合掌がシイタケを採取しやすい（図１）。 オ　ホダ木は、品種別、太さ別、樹種別に組んでおくと発生操作、採取・選別などに都合が良い。  図１　合掌型模式図 （熊本県林業研究・研修センターHP より引用）

（作成　林業研究センター）